

公益社団法人 日本給食サービス協会会長賞

『野菜嫌いな私と給食』

北海道札幌市立資生館小学校 六年 繩 乃々香

「ガタタン」という言葉を聞いてみんなは何を思い浮かべるだろうか。物が落ちる音？ダンスのステップ？「ガタタン」は北海道の芦別市の郷土料理「ガタタンラーメン」のことだ。名前の由来は中国語の「具をたくさん含んだスープ」という意味の「含多湯（ファタタン）」から来ており、豚肉、イカ、えび、ちくわ、にんじん、玉ねぎ、白菜、木耳、卵など約十種類の具材が入ったところのある餡を中華麺にかけた料理だ。恥ずかしながら、私は小さい頃から好き嫌いが多く、特に野菜をあまり食べず今でも母を困らせている。そんな私が幼稚園の時に「小学校に入学したら楽しみな事は何？」と聞かれる度に「給食です！」と答えていたと母から聞いた。それくらい楽しみにしていました。しかし、私が小学校に入学する頃、世界中で新型コロナウイルスが大流行した。入学してもしばらく給食はなく、給食が始まつてからも小学四年生頃までは友達とワイヤイ食べるのではなく机を離し、ひとり前を向いて黙々と食べていた。入学前の想像とは違った給食時間だった。野菜が苦手な私だが食べ物を残したくないという気持ちは強く、好き嫌いがあつても食べ切ると決めていた。特に給食が始まつた一年生の終わりや二年生の頃の給食は自分との戦いだった。そんな時に出会つたのがガタタンだったのだ。一年見た目の野菜の入つたラーメンで、今日も時間をかけてでも食べきるぞという思いを胸に挑んだのだったが、予想を大きく裏切られた。私は野菜が食べられたのである。肉と海鮮の旨み、柔らかい野菜、火の通つた溶き卵の優しい味が全てあんにまとまつており、それが中太の中華麺に絡む。私は時間を意識せずとも野菜を食べ切っていた。これは私の野菜の苦手意識を大きく変える出来事になつた。私は野菜が給食に出ることを期待する日々に変わつた。しかしそうして給食にガタタンが出たのは小学四年生の時だ。ガタタンとの再会に歓喜した。現在私は小学六年生で卒業まで約半年。冬休みも考へるとあと数ヶ月しか給食を食べられる機会はないだろう。もちろん小学二年生の出会いから何度も給食にガタタンを出して欲しいとリクエストの紙には書いている。今の所、給食だよりにその文字を見る事はない。卒業まであと数ヶ月の時間に私ができることはこうやつてガタタンへの熱い思いをあちこちで伝えることと友達への根回しだ。みんな「ガタタンって何だけ？」と食べたことがあるにもかかわらずあまり印象に残っていないのだ。過去に二回しか出ていないので仕方がないのだが、こんな美味しいメニューあつたんだよという話をすることでファンを増やし、リクエスト数を着実に増やそうと思う。私がガタタンを卒業までに食べれるかどうかはこれを読むみなさんにもかかっている。